

トドマツノタマバエ

トドマツの葉が縮れたように見える。途中で少し膨らみ、そこでたいてい折れ曲がる。膨らんだ部分の中には数mmの淡い黄色のウジムシ（幼虫）がいる。

まれながら多発し、枝先を枯らす。



1. 被害葉。1967/8/3, 様似町。

【学名】 *Paradiplosis manii* 【分類】 ハエ目 (Diptera) , タマバエ科 (Cecidomyiidae)

【分布】 北海道。

【生態】

宿主：トドマツほかモミ属。

年1世代。土の中で幼虫で越冬し、5月に蛹になる。成虫は新芽が開き始める頃に出現する。雌成虫はまだ束になっている葉と葉の隙間に産卵する。孵化した幼虫は葉の中に潜り込む。幼虫は6～10月の間、葉の中で栄養を摂取する。10月中頃に外に出て、腐植層で繭を作って越冬する。

【文献】

1985. 農林水産省林業試験場北海道支場保護部. 北海道樹木病虫害獣図鑑. 223 pp. 北方林業会, 札幌. (生態, 被害, カラー写真).

北海道立林業試験場・緑化樹センター

トドマツノタマバエ tamabae/todotama/
kaisetv.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2002/1/5.

higai.JPG

「写真1」 上条一昭, 北海道立林業試験場, 1967.

